

教 育 研 究 業 績

2019年5月1日

氏名：青柳（坂上） 祐美子

学位： Master of Arts 修士（文学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
文学・英語学・芸術学	英米・英語圏文学・芸術一般	
主要担当授業科目	英語リーディング演習 I・II、英語リスニング演習 I・II、課題研究、英語の基本、英語表現、ビジネス英語初級・中級。 Japanese Arts and Cultures(Kabuki)（これのみ明治学院大学）	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) 東京成徳大学子ども学部の「英語リスニング演習 I・II」における CALL の実践。	平成 18 年度から毎年度（現在に至る）	学内の PC のサーバー英語の画像教材を UP しておき、それを学生が授業中に自由にアクセスし、英語を何度でも聞く練習を重ねることができるようにした。これにより英語のリスニング能力が向上した。
2) 東京成徳大学経営学部の「英語の基本」における英語リメディアル教育の実践。	平成 19 年度から毎年度（現在に至る）	東京成徳大学経営学部新入生の中から特に英語の基礎力に問題がある学生を集め、中学英語の復習を中心に学習させ、基礎力を向上させた。
3) 明治学院大学において、世界各国からの留学生を相手に Japanese Arts and Cultures(Kabuki) を教える。	平成 18 年度から毎年（現在に至る）	英語で世界各国からの留学生に歌舞伎に関する事柄を、歴史や理論などを教えるのみならず、邦楽の楽器の演奏体験、日本の平安から江戸の衣装を着る体験、本物の歌舞伎役者による歌舞伎の立ち居振る舞いから立ち回りまでの体験、また毎月実際の歌舞伎を見るために歌舞伎座などに引率し、関連の場所にフィールドトリップなどに出かけたりすることを実施。留学生の日本文化の理解を著しく向上させた。
2 作成した教科書、教材	平成 16 年度	中学程度の英語を、文法を中心に復習できるように作った教科書。Listening, Reading の能力もつけられるように工夫してある東京成徳短期大学時代に作ったリメディアル用テキスト。自分が執筆した部分を経営学部の「英語の基本」に使用。英語リメディアルに効果があった。
1) 「English Communication」		
2) 「英語リスニング演習 I・II」用教材	平成 18 年度より毎年更新	東京成徳大学子ども学部の「英語リスニング演習 I・II」において、「Little Charo」「Beauty and the Beast」「Aladdin」「Making of Aladdin」「Cinderella」の空欄つきスクリプトとその正解を作成・配布。リスニング力向上に効果があった。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特になし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		特になし
5 その他		特になし
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		特になし
2 特許等		特になし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		特になし
4 その他		特になし

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1) Lingua-Land English Course I	共著	平成 15 年 1 月 20 日	教育出版	高校総合英語教科書 (英語 I 用) (共著者) 赤川裕・青柳祐美子 (=坂上祐美子)・生田少子・菅正隆・神崎浩・佐藤哉二・Agneta Riber
2) Lingua-Land English Course II	共著	平成 16 年 1 月 20 日	教育出版	高校総合英語教科書 (英語 II 用) (共著者) 赤川裕・青柳祐美子 (=坂上祐美子)・生田少子・菅正隆・神崎浩・佐藤哉二・Agneta Riber
3) English Communication	共著	平成 16 年 4 月 1 日	東京成徳英語研究会刊	中学程度の英語を、文法を中心に復習できるように作った教科書。Listening, Reading の能力もつけられるように工夫してある東京成徳短期大学時代に作ったリメディアル用テキスト。 (共著者) 橋本禮子・伊藤香代子・糸山昌己・大和田栄・坂上祐美子・吉江正雄・渡辺佳余子・Gennie Watanabe
4) OED の日本語 378	共著	平成 16 年 2 月 10 日	東京成徳英語研究会刊 (全 578 頁)	(全体概要) 『西洋の日本発見—OED に見られる日本語— 第一集』から『西洋の日本発見—OED に見られる日本語— 第七集』の 7 冊を解体し全体の見出し語を ABC 順に並べて一巻にまとめたもの。 (担当者分概要) 6~7 頁 15~16 頁 20~22 頁 32~43 頁 50~51 頁 64~65 頁 87~88 頁 91 頁 102~103 頁 112~115 頁 143~144 頁 157~159 頁 212~214 頁 236~237 頁 265~256 頁 279~281 頁 283~284 頁 299~300 頁 311~313 頁 356~537 頁 380~381 頁 381~382 頁 391~395 頁 398 頁 468~469 頁 481 頁 「秋田犬」「鼈甲」「文楽」「雅楽」「噺家」「旗本」「いろは」「一分金・一分銀」「浄瑠璃」 「歌舞伎」「鬘」「鬼門」「万葉がな」「紋」「熨斗」「女形」「折本」「厘」「両」「尺八」「升」「笙」「所作事」「朱分金」「土佐犬」「団扇」 (共著者) 福田陸太郎・橋本禮子・伊藤勲・伊藤香代子・糸山昌己・海老名洗子・太田隆雄・大和田栄・尾造保高・坂上祐美子・西澤龍生・西村幸三・野呂有子・馬場哲生・吉江正雄・渡辺佳余子

<p>(学術論文)</p> <p>1) "Nathaniel Hawthorne and the Unpardonable Sin" (修士論文)</p> <p>2) "Reformed or Deformed? Pearl in Nathaniel Hawthorne's <i>The Scarlet Letter</i>"</p> <p>3) "Melville's Proud Voyager: A Perspective on Why Ahab Hunts the White Whale"</p> <p>4) "The Quest for Truth in Hawthorne's Labyrinths"</p> <p>5) 外国人留学生が見た歌舞伎(1) 「Japanese Arts and Culture 3, 4」授業報告</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>昭和 56 年 6 月</p> <p>平成 2 年 3 月</p> <p>平成 4 年 2 月</p> <p>平成 8 年 3 月</p> <p>平成 24 年 3 月</p>	<p>カリフォルニア大学バークレー校大学院修士論文として</p> <p>『東京成徳短期大学紀要』第二十三号 57～64 頁</p> <p>『高橋傳七先生追悼記念論文集 風雅の館』湘南英文学会編 248～266 頁</p> <p>『東京成徳短期大学紀要』第二十九号 55～63 頁</p> <p>『東京成徳大学子ども学部紀要第 1 号』85～99 頁</p> <p>日本ナサニエル・ホーソン協会平成 7 年度全国大会</p>	<p>ナサニエル・ホーソンの作品の重要なテーマの一つに、自分を神の立場に置いて人の心の神聖さを犯すという「許されざる罪」がある。特に『緋文字』のチリングズワース、「イーサン・ブランド」の主人公「あざ」「ラパチニの娘」などに登場する科学者たち、また『ブライズデール・ロマンス』に登場する社会改革者のホリングズワースなどを中心に、彼の作品の登場人物がいつどのようときに誰に対してこの罪を犯し、またホーソンが示唆しているそこからの脱却法を精査した。</p> <p>『緋文字』の主人公ヘスターが姦淫の結果生んだ子供パールと「やさしい少年」のイルブラヒムを始め、ナサニエル・ホーソンの作品の子供たちは、美しいがいわゆる「変わった子供」が多い。それは当時の人たちがアン・ハッチンソンと彼女の子供について考えたように母親の罪を背負ったゆえの「奇形」なのか、それともホーソンが様々な作品で示唆しているように「改善」なのか等について考査した。</p> <p>ハーマン・メルヴィルの『白鯨』の主人公エイハブ船長は、モビー・ディックをなぜあれほどまでに執拗に追い、抹殺しようとしたのか。「鐘樓」の主人公をはじめとするメルヴィルの他の作品の主人公及び彼が傾倒するホーソン作品の登場人物、特に『緋文字』のチリングズワースの場合と比較しながら、一つの目的以外に何も見えなくなり、そのためにならば他人の命も自分の命も顧みなくなったエイハブと捕鯨船ピークオッド号の破滅への航海を考査した。</p> <p>日本ナサニエル・ホーソン協会全国大会での口頭発表に加筆・修正し発表。</p>
<p>(その他)</p> <p>1) "The Quest for Truth in Hawthorne's Labyrinths" (口頭発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 7 年 5 月</p>	<p>日本ナサニエル・ホーソン協会平成 7 年度全国大会</p>	<p>ナサニエル・ホーソンの作品には、主人公が暗い森や迷路に入り込み、そこに何かを見出して出てくるというモチーフがしばしば登場する。見出すものは主人公を殺そうとする怪物や主人公を惑わす女性など様々だが、一種の真実である。その真実を見出して迷路から出てきた主人公のその後の生き方は以前と同じではない。ホーソンの長編・短編に登場するこのモチーフをたどり、ホーソンがそこからどのような警告を与えているか等について考査した。</p>

(注) 研究業績は旧姓坂上祐美子(Yumiko Sakaue)の名で書いています。

